
新史 太平洋戦争 護衛艦隊異世界奮闘記

十二試艦上戦闘機

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

新史 太平洋戦争

護衛艦隊異世界奮闘記

【Nコード】

N4998Y

【作者名】

十二試艦上戦闘機

【あらすじ】

20XX年自衛艦群は米日合同大規模演習に参加しようとする各方面隊が基地を出港し終えて、小笠原諸島をグアムにむけて進んでいた時である。

前方に大規模な低気圧が発生しており、指揮官の前原一真海将補は前方警戒を出した、そのまま護衛艦群は何事も無く進むと思っただが磁気嵐が発生しており、レーダーはおろか全ての電子機器が一時使用不能になった。

低気圧を抜けるが、GPSも反応せず、目の前には見たこともない
海域が広がっていた！

プロローグ

これは、とある世界の太平洋戦争の時代にタイムスリップした自衛隊の物語である。

仮に異世界Aとしよう、この世界は我々の世界と似ているが所々ちがっていた。例えば、太平洋の面積が二倍近くになっているし、日本にも豊富に資源がある世界である。

また、自衛隊にも違いがあった、正規空母を持っているのである、しかも搭載機は純日本製！

この世界はミッドウエー海戦まで史実と同じ道を歩んでいた…。

しかし、自衛隊がタイムスリップしたことによって大きく変わっていく！

プロローグ（後書き）

いやー、文章を作るのってなかなか疲れますね（- - ;）。

不定期というか、3日に一度ぐらいは更新したいと思っています
…。

異世界への移転(前書き)

登場人物

まえはらいかずま
前原一真 (28)

階級 海将補

最初は海上幕僚長であったが、太平洋戦争での日本軍の行動を『日本の行った事は侵略戦争では無い、アメリカの罠にはまったのだ!』という発言により左遷され現在に至る。

はやしほらたけき
林原大樹 (34)

階級 二等海佐

前原の事を最初は警戒していたが、対話してみる事により意気投合、前原の良き親友でもあり、飲み友達。

登場艦艇

しなの型航空機搭載護衛艦

標準排水量 36600トン

最大排水量 40600トン

全長 260m

全幅 60m

速力30ノット以上

機関 IHIガスタービンエンジン 46000軸馬力 4軸

搭載100機

アングルド・デッキ、スチームカタパルト、エレベーター2基

兵装

5インチ単装速射砲 2基

20? CIWS 4基

近接ミサイル防御装置 2基

Mk.41 mod.15 (32+32セル)

発展型シースパロー

07式垂直投射ロケット

90式艦対艦誘導弾

トマホーク艦対地ミサイル

艦載機

F-3 心神 制空戦闘機 40機

F-2 支援戦闘機 40機

E-2 早期警戒機 3機

予備機 17機

レーダー

SPY-1D イージスレーダー

FPS-3 射撃管制装置

OPS-28E 対水上レーダー

OPS-20 航海レーダー

ソナー

SQS - 53C 艦首装備ソナー
曳航式ソナー

電子戦装置

ESM/ECM: NOLQ - 2

Mk - 137 チャフ・フレア発射機 4基

共産党や社民党などの左翼の反対を押しきり、石破茂防衛大臣（当時）が建造させた、通常動力であれば世界最大の空母である。

空母でありながらイージス艦並みの戦闘力を持った最強空母である。

異世界への移転

第一護衛艦群旗艦しなの艦上

通信員「司令！GPS反応途絶及びスーパーバード衛星通信使用不能！」

前原「どういう事だ？僚艦は無事か？」

林原「全艦艇は無事です。」

前原「それは何よりだ。しかし、ここは何処なんだ？見たことのない海域だが…。」

前原「よし！とりあえず早期警戒機と心神を出せ！」

林原「しかし司令！防衛省から何の連絡も来ておりませんが？」

前原「とりあえずは状況確認が先だ！」

航空参謀？「了解！カタパルトより心神4機とホークアイ2機を発進させます。」

林原「いいんですか！航空参謀！」

航空参謀「まあまあいいんじゃないですか？司令の言うことも正論ですし。」

砲術長「CICから艦橋へ！国籍不明機接近、IFFに反応無し！」

前原「何だと！心神に連絡、国籍不明機の確認に迎え！なお、攻撃は不可。」

航空参謀「了解！」

前原「全艦対空警戒！」

その頃心神では…

パイロット1「隊長！未確認機まであと、20キロ！」

隊長「よし、未確認機の面を拝んでやるぜ！」

10分後…

隊長「何！あれは零式水偵！」

パイロット2「隊長、バンクを振っていますか？」

隊長「どうやら敵では無いみたいだな、旗艦に連絡、未確認機は日本軍機のもよう。」

前原「おかしいな、なぜ日本軍機が？」

林原「どうやらタイムスリップしたようですね。」

前原「何故そんなことが解る？」

林原「指令、私を誰だと思っているんです？こう見えてもSF小説

を読んでいるんですよ。」

砲術長「CICより艦橋！前方100？に超大型艦を含む艦隊を探知！」

果たして艦隊の正体とは！次号に続く…

異世界への移転（後書き）

やっぱり文章は難しい（-_-;）

国語の成績はいい方なんだけどなー…

次回をお楽しみに！

連合艦隊との遭遇（前書き）

登場兵器

UH-60 ブラックホーク

AH-64Jアパッチ・ロングボウ？

武装：M230A1 30mm機関砲×1

：ヘルファイアー対戦車ミサイル×8

：AIM-9Xサイドワインダー×2

：ハイドラ70 FFRロケット弾ポッド×2

AH-64Dの日本独自改良版。ロングボウレーダーを改良し、サイドワインダーを装備できるようになったことで中距離の飛行目標にも対応出来る。

F-3戦闘機「心神」

武装：30？機関砲×2

：99式空対空誘導弾×4

：90式空対空誘導弾×4

電子機器：ジャミング（電波妨害）装置

：レーダー警戒装置連動チャフ・フレア・デコイ発射装置

：AN/APG-63（V）2レーダー

防衛省技術研究本部が苦心の末に開発し実戦配備されたものである。最新の電子機器やミサイルが搭載されているが、なんと目

玉は
ジャミング装置である。このジャミング装置は、レーダーはおろか、
AIM-120アムラームでさえも無力化してしまう性能を持っている。

開発は、秘密裏に行われていて米国にも知らされていない。

あきづき型護衛艦

兵装：Mk・45 62口径5インチ単装砲 1基

：高性能20mm機関砲(CIWS) 2基

90式 SSM 4連装発射筒 2基

Mk・41 VLS (32セル)

? ESSM 短SAM? 07式 SUMを発射可能 1基

HOS-303 3連装短魚雷発射管 2基

艦載機

SH-60K哨戒ヘリコプター 1/2機

C4I

MOFシステム(SUPERBIRD B2)

海軍戦術情報システム

(OYQ-11 ACDS+リンク 11/14/16)

FCS-3A FCS

レーダー

FCS-3A 多機能レーダー

(捜索用、FC用アンテナ各4面) 1基

OPS-20C 航海レーダー 1基

ソナー

OQQ-22 統合ソナー・システム

(バウ・ソナー+OQR-3 TACTASS)

電子戦・

対抗手段

NOLQ-3D 統合電子戦システム

Mk 36 SRBOC 対抗手段システム
(Mk・137 チャフ・フレア発射機×4基)

言わずともわかる、海上自衛隊最新の護衛艦。

前置き

この世界の日本海軍は史実の電子機器よりも数倍性能が良いです。
なので、おかしい点はありますがご了承下さい。

連合艦隊との遭遇

第一護衛艦群旗艦しなの艦上

前原「不明艦隊の詳細はつかめたか？」

林原「レーダーの反応によればおそらくは、米太平洋艦隊か日本海軍連合艦隊と思われますが・・・」

前原「多分超大型艦は大和だろうな。通信員、モールスにて打電。内容は・・・。」

通信員「了解。直ちに打電します。」

連合艦隊大和艦上

山本五十六「零式艦偵からの報告はまだか？黒島参謀。」

黒島「只今入電しました。『アメリカ艦隊の発見はできず。しかし海上自衛隊なる軍隊を

50海里洋上にて発見セリ。』と

のことです。」

山本「海上自衛隊？聞いたことのない軍隊だが・・・。」

黒島「さらに、海上自衛隊から入電『発日本国海上自衛隊、宛連合艦隊司令長官山本五十六大将。』

我が艦隊は名前は違えども友軍なり。貴艦隊との武力衝突は望まないので、速やかなる

代表会議を望む。日本国海上自衛隊護衛艦隊司令前原一真
との事です。長官、いかが
いたしましょう？」

山本「面白い、その海上自衛隊の代表に会ってみようじゃないか。」

黒島「危険です！敵の罠の可能性も有ります！」

山本「敵だったらなぜこんな打電をしてくる？しかも平文でだぞ。」

黒島「・・・分かりました。通信室、平文にて打電『了解した。会議は大和艦上にて行う。』」

以上だ。」

しなの艦上

通信員「報告。大和より打電、会議は大和艦上で行うそうです。」

前原「そうか……。すぐに、陸上自衛隊の特殊作戦群の隊員1個分隊とブラックホーク、それに

アパッチを用意、心神もすぐに上げられるようにしとけ。」

林原「了解。僚艦のえちごで発艦準備させます。」

作者「なぜ陸自がいるかだつて？それは、離島防衛訓練をやるためにひゅうがといせとおおすみ

しもきた、くにさきにのっているんだよ。ちなみに、他の輸送艦と合わせて一個連隊程度。

あと、防衛省が輸送艦大量配備したという設定です。」

10キロほど進んだ時

アパッチ機内

隊員「司令！こんな機体に乗っては危険です！直ぐに引き返しましょうー！」

前原「大丈夫だ。このまま飛行を続ける。」

隊員「りょ・了解。・・・司令！レーダーに反応、大型機と思われる。」

前原「チツ、こんな時にかよ。ついてねーなあ。」

隊員「司令、いかがいたしましたしょう？」

前原「レーダーにロック、目視できるまで大型機に接近しろ。」

隊員「了解。最大速度で進みますので揺れがありますがご了承くだ
さい。」

10分後・・・

隊員「司令、目標機の機種はPBYカタリナと思われる。どうしま
しょう？」

前原「サイドワインダーを使う。発射用意、ファイアー！」

バシユッ！！

カタリナ機上

乗員1「機長、後方にオートジャイロ。」

機長「ほっつておけ、どうせ付いてはこれまい、それよりジャップの艦隊を見つけるのが先だ。」

乗員2「後方よりロケット!!!」

機長「緊急回避!!!総員何かに掴まれ!!!」

グオーン

乗員1「ダメです!追尾してきます!!!うわあああ!!!ぶつかる!!!」

ドガーーーーーン!!!

アパッチ機上

隊員「司令、目標の撃破を確認。」

障害を排除し、大和に向かう前原であったが、護衛艦隊に危機が迫る!!!

はたして、危機とは何だろうか!次回に続く……

連合艦隊との遭遇（後書き）

異世界架空戦記には無くてはならない存在の山本長官の登場です。

あと、全護衛艦の艦長は移転したのを知っているという仕様ですのであしからず。

あきづきとか出せなくてすみませんm | | m、次回に持ち越しです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4998y/>

新史 太平洋戦争 護衛艦隊異世界奮闘記

2011年11月19日10時14分発行